

東アジア・サマースクール2015 募集要項

募集期限：2015年6月30日(火)



はじめに

近年、グローバル化の進展により、世界は大きな転換期を迎えています。

特に、東アジア地域は世界経済に大きな影響を与える規模に成長していることから、互いの海外貿易のみならず、教育研究分野、自然災害対策等の連携や持続的発展に向けた施策、仕組みづくりへの対応を更に進めていかななくてはなりません。

そのためにも、次代を担う人材は、東アジア諸国の歴史や文化、政治経済、社会事情等のリベラルアーツを学び、各国の共通性や相違点をお互いが理解することが必要です。その上で、若い世代が国を越えて対話し、相互交流を図ることが、この地域における一体感を高め、互いの利益につながる施策を実行することができると思います。

私たちは奈良県の持つ歴史的、文化的特色を活かしながら過去4回にわたり実施した「東アジア・サマースクール」を継続的に行うことで、新しい東アジアの未来を担うさらなる人材を育成する取組を展開します。



第 79 代内閣総理大臣
東アジア・サマースクール名誉塾長
ほそかわ もりひろ
細川 護熙

将来の東アジア地域の発展をリードしていくためには、グローバルな視点で考え、行動できる人材を育成することが必要であり、東アジアの若い世代が歴史や文化などの共通性や相違点を理解し、対話や相互交流をはかる機会を設けることは大変意義深いことです。

奈良の地は、日本が国づくりを進めた6世紀から8世紀に首都「平城京」がおかれた地であり、中国や韓半島から技術や文化が伝わり、国づくりのための基礎が創られました。

そのような歴史を持つ奈良県が「歴史」への感謝の気持ちを込めて開催する「東アジア・サマースクール」において、東アジアの未来を担う若者であるみなさんが、東アジア各国の相互理解を深めて多くを学ぶとともに、将来に繋がる互いのネットワークを形成し、成長することを私も期待しています。



奈良県知事
東アジア・サマースクール塾長
あらい しょうご
荒井 正吾

2011年より奈良県が開催している「東アジア・サマースクール」は、グローバル社会における東アジアの発展を目指すために、次代の人材育成や交流を目的として実施しており、今夏で第5回目の開催を迎えます。

本スクールのカリキュラムは多岐にわたり、歴史・文化、環境や医療など各分野に精通した講師陣による講義のほか、県内の文化遺産に触れ、生活文化を体験できる研修、受講生によるレポート作成や成果発表など充実した内容となっています。

この「東アジア・サマースクール」に東アジア各国から多くの若者にご参加いただき、知的な交流を活発化させながら、相互の文化への尊敬を生み出し、将来的に東アジアの発展に寄与できる人材になってもらいたいと考えています。

開催概要

実施時期: 2015年 8月 18日(火)～ 8月 30日(日) の13日間

実施場所: 奈良市(中心会場: 奈良県立大学)ほか

名称: 東アジア・サマースクール 2015

主催: 奈良県・奈良県立大学

募集人数: 45名

受講対象: 若手地方政府職員、大学生・大学院生、その他

参加資格: 本研修の受講者は、下記の全ての要件を満たす者とします。

- ①「東アジア地方政府会合」メンバーの地方政府が推薦する若手の地方政府職員、大学生・大学院生等であること
- ②日本語による大学レベルの講義やグループ討議、レポート作成等への対応が可能であること
- ③研修の全日程に参加可能であること

参加費用: 講義や視察・体験学習などにかかる費用、会期中の宿泊費は主催者である奈良県が負担しますが、以下については受講生の自己負担もしくはそれぞれの地方政府で対応をお願いします。

- ①会場まで(海外から直接参加する受講生については関西国際空港まで)の旅費(往復)や食費、宿泊費等
- ②海外から参加する受講生は、事前に海外旅行傷害保険等に加入願います。
- ③期間中の夕食、自習日の食費、個人的な飲食、交通費、土産品の購入費等は、各自で負担願います。
- ④国内からの受講生のうち、自宅から通学される方は、期間中の講義会場間の交通費は、各自で負担してください。

そのほか: ①研修期間中の盗難、紛失、事故等については、主催者である奈良県は一切責任を負いません。

- ②受講者のみなさんには各講義終了後にレポートの提出をお願いするほか、最終日までにそれまでの学習成果を取りまとめていただき、発表していただきます。関係者で閲覧させていただくほか、事後も含めて公表することがあります。
- ③開講式およびウェルカムパーティー、修了式およびフェアウェルパーティーにはその場に適した服装をお願いします。また、一般のご家庭の協力のもと実施するホームビジット(※外国人を家庭に訪問させ日常生活をそのままに行う交流)につきましても、配慮ある服装を心がけるようお願いします。
- ④講義や視察等では、記録のため写真撮影を行い、記録誌やホームページ等で活用することを予めご了承ください。

カリキュラムの構成

※講師の都合等により変更する場合があります。予めご了承ください。

次代を担う未来のリーダーを目指すみなさんと共に、以下の学習目標に向けたカリキュラムを展開します。

【学習目標】東アジアの「共通性」や「関係性」に気づき、幅広いリベラルアーツを学ぶ

(1)【講義】(90分×15回)

東アジアの歴史、文化、政治・経済、環境、科学技術など各分野の著名な講師陣による講義です。

(2)【グループ討議・発表】(90分×5回)

1日の講義の終了後に、受講生の能動的な学習を実現すべく、経験豊かなファシリテーターの進行のもと、受講生同士が意見交換できる機会を提供します。

(3)【レポート提出】(計5回)

講義の実施日には講義内容を各自で整理し、より深く理解する為に、設問に答える形で1日を振り返るレポートの提出をしていただきます。

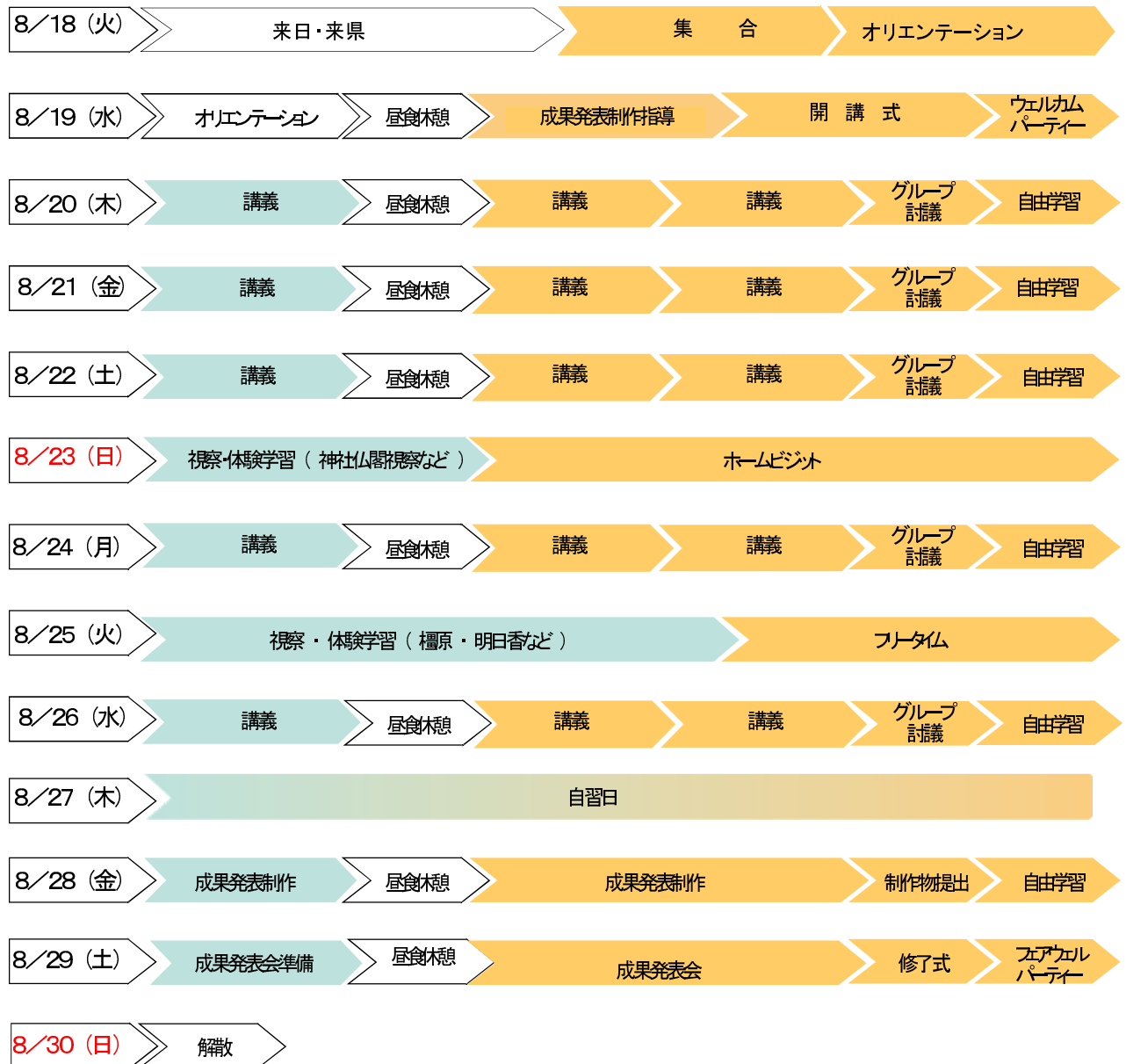
(4)【視察・体験学習】(計2日)

新たな魅力や気づきを与え奈良県の魅力再発見につなげるプログラムとして、ホームビジットや県内の専門機関の協力による実際の現場を体感する視察などの体験学習を展開します。

(5)【成果(論文)発表】

期間中のカリキュラムを通じて得られた成果を整理し、発表していただきます。提出していただいた成果物は後日編集し、共有していきます。

カリキュラム日程



※講師の都合等により変更する場合があります。予めご了承ください。

参加申込について

下記提出書類を揃え締切日までに奈良県教育振興課に郵送もしくは電子メールへの書類添付により提出してください。応募書類受付後、奈良県教育振興課より受領確認通知を行います。

(1) 募集期間

2015年6月10日(水)～6月30日(火)

(2) 提出書類

① 地方政府からの参加推薦書(別途書式)

★各地方政府からの推薦者は2名以内とします。参加希望者が多い場合は、選考の結果、1名のみとさせていただく場合がありますので、ご了承ください。

② 参加者応募用紙(別途書式)

(3) 郵送で応募する場合の注意事項 締切日当日の消印有効です。

(4) 電子メールで応募する場合の注意事項

① 全ての書類をPDF もしくは Excel 形式にしてください。

② 奈良県教育振興課で受領後、3日以内に電子メールで受領確認の通知を行います。

③ 上記期限内に受領確認の連絡がない場合は、下記にお問い合わせください。

(5) 書類送付先、問い合わせ先

〒630-8501 奈良市登大路町30 奈良県教育振興課

E-mail: summer-school@office.pref.nara.lg.jp

提出書類は、選考の結果に関わらず返却しませんので、あらかじめご了承ください。

(6) 募集人数

定員45名。なお、特定の地域出身者に偏ることのないよう調整させていただく場合がありますのであらかじめご了承ください。

ご提出頂く応募書類の取り扱いについて

【個人情報の利用目的】

収集した応募者の個人情報は、以下の目的で利用させていただきます。当課は、ご本人の同意を得ないで、この利用目的の達成に必要な範囲を超えて応募者の個人情報を利用いたしません。

- ・当課が受講者の選考を行うため。
- ・「東アジア・サマースクール」にかかわる、各種情報の提供や連絡等を行うため。
- ・応募者についての統計、データ分析を行うため。

【個人情報の取扱いについて】

当課は収集した個人情報を当課の責任のもとで適切に管理し、研修の受講に至らなかった場合は、当課の責任のもとで適切に廃棄致します。この場合、書類の返却は致しておりませんのでご了承ください。

参加決定の通知について

2015年7月初旬を目途に参加決定通知を送付いたします。

※研修の実施に支障が生じますので、原則として、受講が決定した方は参加をキャンセルすることのないようお願いいたします。

「東アジア・サマースクール」講師の方々をご紹介します！

この他にも各分野の著名な講師の方々が続々登場されます！！

【教育・文化政策】



佐藤 禎一(元文部事務次官、国際医療福祉大学大学院教授、
奈良県立大学客員教授)

1964年京都大学法学部卒業後、文部省(当時)に入省。文化庁次長、文部省学術国際局長、1997年文部事務次官、2000年日本学術振興会理事長、日本国政府ユネスコ代表部特命全権大使、東京国立博物館長。2009年国際医療福祉大学大学院教授・学事顧問

【交通と観光】



岩村 敬(元国土交通省事務次官、奈良県立大学客員教授)

1966年東京大学法学部卒業。同年、運輸省入省。航空局長、運輸政策局長、国土交通省総合政策局長などを経て、2004年国土交通省事務次官。2005年国土交通省退官。その後、(財)港湾近代化促進協議会会長、慶應義塾大学環境情報学部教授、東京大学公共政策大学院客員教授、(株)損害保険ジャパン顧問、関西電力(株)顧問、関西国際空港(株)取締役会長を歴任し、現在に至る。(一財)環境優良車普及機構会長、(公財)交通エコロジー・モビリティ財団会長などを兼ねる。

【歴史】



田辺 征夫(奈良県立大学特任教授)

1944年三重県生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。文化庁美術工芸課主任文化財調査官、東京国立博物館学芸部考古課長、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長、独立行政法人国立文化財機構理事奈良文化財研究所長などを経て、2011年より現職。

<主要な編著書>『歴史考古学大辞典』(2007年、吉川弘文館)、

『古代の都2平城京の時代』(2010年、吉川弘文館)等

【世界遺産教育】



石本 東生(奈良県立大学地域創造学部地域創造学科講師)

奈良大学地理学科卒、イスラエル共和国留学時に同国観光省公認のガイドライセンスを取得。その後、ギリシャ共和国国立アテネ大学大学院歴史考古学専攻科博士後期課程を修了、Doctor of Philosophy(初期ビザンティン史)。欧米の二大思潮とも言えるヘブライズムとヘレニズムの歴史・考古学を広く研究し、帰国後はギリシャ政府観光局日本・韓国支局に12年間勤務。その間、ギリシャ・ローマ世界の世界遺産、文化遺産、無形文化遺産と観光との関わりについて事例研究し、且つギリシャ観光のPRを行ってきた。成熟したヨーロッパのヘリテージツーリズムと奈良のヘリテージツーリズムの比較研究が今後のテーマ。

【思想・哲学】



小倉 紀蔵(京都大学教授)

1959年東京都生まれ。京都大学教授。東京大学ドイツ文学科卒業、ソウル大学哲学科博士課程単位取得。

専門は朝鮮半島の思想・文化、東アジア哲学。NHKテレビ・ラジオハンゲル講座講師、「日韓友情年2005」

実行委員、「日韓交流おまつり」実行委員、「日韓文化交流会議」委員などをつとめた。

＜主要な著書＞『創造する東アジア 文明・文化・ニヒリズム』（春秋社2011年）

『心で知る、韓国』（岩波書店2005年）

『歴史認識を乗り越える』（講談社現代新書2005年）

『新しい論語』（ちくま新書2013年）

『韓国は一個の哲学である』（講談社現代新書1998年）

【環境】



田中 克(京都大学名誉教授、公益財団法人国際高等研究所 チーフリサーチフェロー)

1943年滋賀県大津市生まれ。1971年京都大学大学院農学研究科博士課程修了。その後、西海区水産研究所(長崎市) 研究員、京大農学研究科教授、同フィールド科学教育研究センター長、マレーシアサバ大学持続農学部 客員教授などを経て、2010年より(財)国際高等研究所チーフリサーチフェローに就任。NPO法人ものづくり生命文明機構理事。NPO 法人森は海の恋人理事。2014年4月より、気仙沼市舞根湾に新設された舞根森里海研究所長を務める。

【外交・国際交流】



谷野 作太郎(公益財団法人日中友好会館顧問)

1936年東京生まれ。1960年東京大学法学部卒業。同年、外務省入省。中国課長、アジア局長等、主にアジア畑を中心に従事。ソ連(一等書記官)、中華人民共和国(同)、米国(公使)、韓国(同)等の在外日本大使館勤務を経験。また、内閣(故鈴木善幸総理秘書官、外政審議室長)、総理府等の役職を歴任。その間、サミット、日米・日中首脳会議、カンボジア和平東京会議などに参画する。1995年～在インド日本国大使、1998年～在中華人民共和国日本国大使。2001年外務省退官。同年6月、株式会社東芝取締役(2007年6月 退任)、2002年4月、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科客員教授(2007年3月退任)を歴任。2007年10月株式会社東芝顧問(2009年9月退任)、福田総理の外交問題勉強会メンバーに就任。株式会社東芝取締役(2014年6月～再任)。

＜主要な著書＞『アジアの昇龍』（世界の動き社）

【社会保障】



辻 哲夫(東京大学特任教授)

1971年東京大学法学部卒業後、厚生省(当時)に入省。老人福祉課長、国民健康保険課長、大臣官房審議官(医療保険、健康政策担当)、官房長、保険局長、厚生労働事務次官を経て、2008年4月から田園調布学園大学 教授、2009年4月から東京大学高齢社会総合研究機構教授を務める。現在、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。厚生労働省在任中に医療制度改革に携わった。編著書として、「日本の医療制度改革がめざすもの」(時事通信社)「地域包括ケアのすすめ 在宅医療推進のための多職種連携の試み」(東京大学出版会)「超高齢社会 日本のシナリオ」(時評社)等がある。

【科学技術】



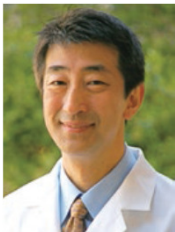
松本 紘(京都大学前総長)

1942年生まれ、奈良県出身。2002年京都大学宙空電波科学研究センター長、04年京都大学生存圏研究所所長、05年京都大学理事・副学長を経て08年京都大学総長に就任、現在に至る。13年6月から一般社団法人国立大学協会会長も兼ねる。専門分野は宇宙プラズマ物理学、宇宙電波科学、宇宙エネルギー工学。06年Gagarin Medal、文部科学大臣表彰科学技術賞受賞、07年紫綬褒章受章。08年Booker Gold Medal受賞。

<主要な著書>『宇宙開拓とコンピュータ』(共立出版1996年)、『京の宇宙学』(近代科学社2009年)

『宇宙太陽光発電所』(ディスカヴァー・トゥエンティワン2011年)等

【東洋医療】



渡辺 賢治(慶應義塾大学環境情報学部 教授・医学部 兼任教授、慶應義塾大学院政策・メディア研究科教授)

1984年慶應義塾大学医学部卒業、1990年東海大学医学部免疫学教室助手、1991年米国スタンフォード大学遺伝学教室ポスドクトラルフェロー、1995年北里研究所東洋医学総合研究所、2001年慶應義塾大学医学部東洋医学講座(現漢方医学センター)准教授、2012 奈良県立医大客員教授、2013年慶應義塾大学環境情報学部教授・医学部兼任教授、慶應義塾大学院政策・メディア研究科教授、2014年公立大学法人奈良県立医科大学大和漢方医学薬学センター 特任教授、副センター長、現在に至る。

日本内科学会内科専門医、日本東洋医学会専門医・指導医、WHO ICD改訂委員会委員、奈良県顧問

【比較文化】



王 敏(法政大学教授)

文化大革命後、中国全土の大学教員から選出した国費留学生として1982年、宮城教育大学に留学。2000年、お茶の水女子大学で人文科学博士号を取得。東京成徳大学教授を経て、法政大学教授。文化外交を推進する総理懇談会委員、国際文化交流推進会議有識者会合委員ほか政府系有識者委員会の委員や日本ペンクラブ国際委員、朝日新聞アジアフェロー世話人などを歴任。日中文化関係を中心の比較文化、宮沢賢治を切口の日本研究に励んでいる。90年に中国優秀翻訳賞、92年に山崎賞、97年に岩手日報文学賞賢治賞を受賞。2009年に文化長官表彰。

【漫画・歴史】



里中 満智子(日本漫画家協会常務理事、大阪芸術大学教授)

1948年生まれ。16歳で第1回講談社新人漫画賞を受賞。ヒット作多数。歴史を扱った作品も多く、『万葉集』の世界をもとに、持統天皇を主人公とした「天上の虹」を20年以上にわたり執筆し続けている。

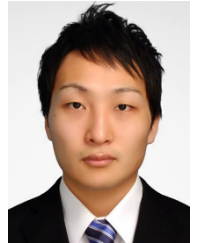
<主要な著書> 『あした輝く』、『アリエスの乙女たち』、『天上の虹』等



「東アジア・サマースクール」参加者からのメッセージ

「もはや、戦後ではない。」そんな感想を抱かせてくれる場です。戦後、互いに競争し、対峙してきた東アジアの人々が、奈良の地で多くを共にし、素直に意見を交わす。奈良の地が参加者を迎えます。共に理解し、または理解しようと努めることが、国境を越えて求められる今、この東アジアサマースクールへの参加は、確かに個人の意識に大きな変化をもたらします。私もまた、奈良の地でかけがえのない仲間と、新たな他者理解への萌芽を手にした一人です。私は今年もまた多くの人が、この塾を通して、東アジアの結束という意識をもってくれることを願ってやみません。

【東北学院大学大学院 文学研究科 坂内輝道】



海外に出るのは初めてでしたので、戸惑うこともたくさんあるだろうと不安でした。しかし、いつも県職員やスタッフの方がそばにいて応援していただきました。また、「東アジア・サマースクール」では、東アジア各国からの参加者とともに、一流の講師陣の講義を受講するとともに、体験プログラムもたくさん用意されていました。奈良公園や東大寺、橿原考古学研究所を見学し、一般家庭をホームビジットで過ごしたことは楽しい経験でした。2週間の短い期間でサマースクールは終わってしまいましたが、この期間で多くのことを学び、多くの友人と出会いました。みなさんもチャンスがあれば、ぜひ参加してください。

【ベトナム・フエ外国語大学日本語・文化学科 グエン・テイ・ジャン】

第4回東アジアサマースクールに参加したおかげで、日本及び東アジア各国への理解が深まったほか、東アジアの各国からの参加者と友達になることができました。これは今回の東アジアサマースクールで私が得た財産だと思えます。「耳で聞くのは偽りで、目で見るとは真実だ」というように、私も実際に日本に来て、肌で感じてこそ、日本の色々な面を知ることができ、日本に対する理解が深まりました。そして、東アジア各国の参加者と実際に交流することによって、東アジア各国への理解も深まりました。私は前にも日本に来たことがあります。今回は以前の訪日体験とは比べ物にならないくらい濃い体験でした。また、より心惹かれたのは奈良公園の風景の美しさです。これは最高の思い出だと思います。2015年の東アジアサマースクールの参加者の皆様も日本及び東アジアについてよく勉強すると同時に、奈良の景色を楽しんでください。

【中国・西安外国語大学日本文化経済学院大学院 吉星】



ここで出会った人たちは韓国、日本、中国、ベトナムから来た様々な人でした。もちろん「学び」も「東アジア・サマースクール」の重要なポイントでしたが、何より「多様な人たちと2週間上手くやっていけるか」もまた、重要なポイントの一つでした。

結果的に2週間の出会いと大事な経験は「私」に大きな意味で残りました。

2週間、4か国から集まった友達たちがいたため、最高と言える「東アジア・サマースクール」だったと思います。

【韓国・韓瑞大学人文社会学部日本学科 金秀娟】



2015
東アジア・サマースクール
East Asia Summer School